

## 第2回 下伊那採択地区協議会会議録

---

日 時：令和6年7月3日 16時50分～

出席者：下伊那採択地区協議会委員 19名（以下、「委員」）

欠席者：なし

事務局：飯田市教育委員会事務局学校教育課

福澤課長

佐々木課長補佐兼学務係長

学務係 樋口

教育支援係 木下

※委員について、発言者の個人名は記載しない。

（進行：福澤課長）

---

### 1. 開会

○壬生副会長（あいさつ）

---

### 2. 会議事項

（進行：熊谷議長）

---

#### （1）令和7年度使用の中学校教科用図書の選定について

○熊谷議長：それでは、会議を始めさせていただきます。よろしくお願ひ致します。先ほどの合同会議の状況を踏まえまして、会議が始まる前にお示しをさせていただいた種目順に協議をしまいたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。

それでは初めに国語と書写についてご協議いただきます。それぞれの部会からは、国語では光村図書、書写についても光村図書が優れていると挙げられましたが、皆様からはいかがでしょうか。委員の皆様からご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○委員：先ほど調査研究委員の方から発表もありましたけれども、4社それぞれに工夫はされていますけれども、推薦の通り光村がいいかなと思います。3年間を見通して、教材の配列などが、発達段階に応じて生徒が興味深く、主体的に学びを深めるような構成の教科書になっているかなと思われまふ。それで、先ほどこの作品のものがあ

ましたけど、配列がだいぶ変わっている部分が結構私興味深く見させて頂いたんですけども、例えば2年生の教科書で言うと、短歌を挙げた後に大岡信の「言葉の力」、昔とだいぶ配列が変わっていたり、「ヒューマノイド」の後に「字のない葉書」を持ってきたりなど、昔ながらの作品を、教材をうまく配列して関連付けて学習できるような形になっているような気がいたしました。それから、今の形で言うと、例えば「走れメロス」の「読む」の教材の中に描写を工夫して書こうというような各単元が配列されているので、そういう工夫が結構光村は顕著であったかなってことは思います。あと、皆さん他にも喋りたい方いらっしゃると思うので、このくらいなんですけど、1つ、デジタルコンテンツの件、先ほど言ったんですけど、デジタルコンテンツは多ければ良いというものではないんですが、光村は結構充実していて、例えば作者のインタビューなどがあって、そのインタビューをメモさせるとか、指導する先生の工夫の余地がかなり使えるようなコンテンツがあるような感じがしました。

トータル的に見て光村が良いかなということで、光村で良いと思います。

○熊谷議長：さらにいかがでしょうか。はい。じゃあお願いします。

○委員：光村がやっぱり良いと思うんですけど、その学びの手順とかですね、そういうのが非常に構造的に示されていて、自分で目標を持ちながら学んでいって、最後の振り返りのところまでが、ずっと一続きで無理なく学べる、そんな風になってるということですとか、教材の歴史上の位置づけを、今回工夫された光村の点だと思うんですけど、古典の教材等、全部分かりやすい歴史の帯が後ろの方の手引きのところについていて、いつ頃の作品なのか、どの教材も見られるようになっています。今までだと、この作品は何年頃に作られたというだけの手引きだったのですが、それが視覚的にちゃんと捉えられる位置付けがずっと施されていて、とても分かりやすくなったな。細かいことですけど、そういうようなところも非常に工夫されてきているので、光村図書が良いかなと思います。以上です。

○熊谷議長：さらに、いかがでしょうか。今、2人の方から、光村図書の教科用図書が良いのではないかとということで、部会の報告と一致し一緒であるというところがございますが、加えて、いかがでしょうか。議論を尽くしたという意味でも、ご意見を多くいただいた方がありがたいのはありがたいんですが。

良いですかね。はい。特に異論のある方、いらっしゃいませんかでしょうか。

はい。ないようですので、部会の方から説明をいただき、また、今委員の皆さんからも今日いただいたご意見で、光村図書の国語の教科書、書写も同じくでよろしいでし

ようか。

○委員：やはり4社よくできていますけれど、先ほど他の委員もおっしゃったように、学びの順番が、学習の進め方のパターンがやっぱりこれも同じで、考えを確かめ生かそうっていう流れが單元ごとに明示されていて、これが分かりやすくなってことも、書写についても、そういうことがあって良いんだなっていうことを思います。あと、このデジタルコンテンツの、全部最初のやつ4社並べて、時間やなんかを確認してみたんですけど、内容見ても、例えば楷書行書それぞれ比べてみると、光村が1番丁寧かなっていう、そんな感じもいたしました。

それで、これから個人で1人の教師が30数人を見るってのは結構大変で、デジタルコンテンツをそれぞれが自分のパターンで見えていくっていう、これからの学習の流れを、そういうことも工夫できるものを持っているので、そういうことも含めて光村図書が良いかなと思います。以上です。

○委員：これも重なりますけれど、どこの会社も非常によくできてるなと思いました。総合力っていう点で見ていった時に、光村の場合は非常に筆使いの説明が分かりやすいついていうこと。それから、楷書と行書の違いが非常に他の会社のよりも具体的に分かりやすくこう書かれてるといようなこと。それから、どの会社も日常や役立つ書式っていうところ、前よりも非常に量が増えた。要するに実用、私生活に生かせる書写っていうような視点が非常にどの会社も強くなってるなと思うんですけど、それから、どの会社も日常や役立つ書式っていうところ、前よりも非常に量が増えた。要するに実用、私生活に生かせる書写っていうような視点が非常にどの会社も強くなっているなと思うんですけど。その中でも光村は、資料編の部分も量的には多いついていうこともあって、それが良いかどうかって言われると、なんとも言えないんですけど、利用さえすれば非常に生かせるなっていうようなことを思いました。

なおかつ、高校の芸術書道への橋渡しも光村は最後に配慮されて作られてるので、総合的に見てみた時に光村で良いのかなと思っています。

○熊谷議長：さらに、書写についてご意見ございましたら、これに対するご異論ございませんか。はい。それでは、まず、国語の教科用図書につきましては光村図書、また書写の教科用図書につきましても 光村図書が適当であるということで決定してよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございました。それでは、国語と書写につきましては終了とさせていただきます。

続きまして、社会科につきまして、ご意見をいただきたいと思います。社会科については、地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図とございます。それぞれについてご意見をいただこうと思いますが、別々にご意見をいただくとちょっと時間がかかりますかね。一緒にいいですか。はい。じゃあ、ご意見をお願いします。

○委員：どの教科書というか、部会の方でご提示いただいた教科書について、その他の教科書もそうだったんですけど、ユニバーサルデザイン等々ですね、使って、随分やはり見やすい、学ぶ意欲が高まる教科書だったなことが全体的な感想です。先ほども出ましたけれど、地理が東書、歴史が帝国って言われて、「違和感」っていうことの話も出たんですが、現在この組み合わせで地理勉強してますので、特に問題がないかなと思います。特に1年生の地理の場合は、やはりこう、もう世界地理始まっているんですけど。学びに入りながらですね、探求学習の深い学びに繋がって単元を貫いていく探求学習の探求課題を設定しながらの学びが深まっていくと。地理の学びには私は良いのかなと思いました。歴史はまたちょっと評価性が違いますのでね。歴史は歴史で、やはり単元ごとの課題を設定しながら進んでいくっていうことで良いのかなと思います。

公民的分野も含めまして、私としましては、東書、帝国、帝国、そして地図は統計資料等も見ましたけれど、トータルして地図は帝国書院でということで、調査研究委員会でご提案いただいた通りで私は良いと思います。以上でございます。

○熊谷議長：はい。ただ、今の地理は東京書籍、それ以外は帝国書院が内容等で良いんじゃないかのご意見をいただきましたが、加えていかがでしょうか。

○委員：最初に、地理と地図でお願いしたいと思うんですが、東京書籍と帝国の両方をこう比較してみると、東書は資料が大変丁寧で見やすく、それが地理の各分野に配置されている。特に日本の地理を学習する面ではダントツによろしいかと思えます。一方で、帝国はやはり地図を選ぶ、私もその通りだと思いますが、地図分野においては他に比べて本当によく丁寧にしっかりされていて、例えば地理で言えば、世界の姿とか日本の姿とか図が、地図が必要なところは、さすがの帝国だなと思うんですが、全体としては、地理としては東書の方が使いやすさから見ればよろしいし、地図は帝国の方が優れている、そんなことを感じました。歴史公民については甲乙つけ難くてなかなか私自身は判断つかないですが、全体の中でご提案いただいた帝国でよろ

しいかと思えます。以上です。

○熊谷議長：異論でも結構でございますが、いかがでしょう。今出ておりますご意見としましては、地理は東京書籍がよろしいと。歴史公民分野は帝国書院が良いというご意見で、地図も帝国書院が良いというご意見をいただいておりますが、いかがでしょう。ご異論ないでしょうか。はい、それでは皆さんご意見一致していると理解いたしましたので、先ほど申し上げた通り、地理的分野は東京書籍、それ以外のものについては帝国書院ということで決定をいたしますが、よろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございます。

では、続きまして数学。先ほどご意見いただいたところでは、新興出版社啓林館、そして東京書籍が良いという、そんな発表いただきましたけども、数学についてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員：結論的に申しますと、啓林館かなと思います。問題に気づき解決していくという、数学的な見方、考え方を大事にする授業の流れを私たちは大事にしているわけで、今後もそのところは大切にしていきたいというところであります。その点で、啓林館そして東京書籍ともに問題解決というところは大事にしているわけです。どちらもその視点は大事にしたいわけですが、啓林館のものにつきましては、特に大切な部分がきちんと明示をされています。また、論理的な思考も大事にしているというところも見取れるわけでありまして、したがって、啓林館ということだかなと思います。

以上ですが、1つ、教師側の意識を少しでも変えていく必要もあるんじゃないかという考え方からすれば、思い切って教科書を変えるという考え方も実際にあるわけで、そこら辺はですね、今後の学習指導、指導方法のあり方その他を含めて大事に考えていかなければいけないというところだと思っています。以上です。

○熊谷議長：学力の課題とも絡めていただきましたが、加えていかがでしょうか。

○委員：すいません、的を得てないかもしれませんが。まず、教科書のページが7社の中で啓林館が一番少ないかなと思います。1、2、3年生ですけれど。少ないのが良いのかよく分からないんですけれども、子ども達が。内容がそれだけ詰まっているんじゃないかなと思うんですけれども。軽い方が良いのかなって思うと、この東京書籍は正多面体の折る厚紙が4枚ぐらい入っていて、1年生ですけれど。他の1年生を見ると半分

くらいの分厚いものもあって、200ページぐらい、半分ぐらいのところでこれ使うことなんですけれど。それまで重いのを持ち続けるのかなってちょっと思いまして、啓林館が良いのかな。それから、QRコンテンツが結構多いなと思ったのと、「大切な考え方」によって、より鮮明な説明予定が絞られているっていうのは調査委員長さんが書かれてるところでありますけれども。それから、数学だけでなく他教科、社会情勢も絡めた内容で設定されておりますので、啓林館が良いかなと思いました。以上です。

○熊谷議長：はい、ありがとうございます。さらに、いかがでしょうか。今、啓林館が良いというご意見が出ておりますが、他社の方が良いというご意見ございませんか。啓林館がこの委員会においては最も適当であるということで、ご異論なければ決定としたいと思います。よろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい。ありがとうございました。それでは、数学につきましては啓林館ということで決定をしまいたします。ありがとうございました。

それでは、続きまして、理科でございます。理科は5社ございますが、その中で東京書籍と啓林館が中では優れているということで先ほどご意見をいただきましたが、特に東京書籍ということでございましたけども、ご意見をいただければと思いがいかがでしょうか。

○委員：はい、お願いいたします。先ほどの合同会議の調査研究結果で、東京書籍を1番にというような点もありまして、それが1番良いのではないかという立場で意見を言わせていただきますけれども、5社の比較、それから、現在東京書籍を使っていますので、新編ってということですかね。新しい教科書がどうなっているのか、向上点という点で私自身も検討したわけでありまして、理科の学習で大切なことは自然を探求する力であるという、これが1番であって、そしてこれが小学校から学んでいると。それで、中学校ではさらにそれを深めていくことが大事であるというように思います。そのことは、下伊那の先生方も、長野県全体もそうなんですけれども、一貫してこの授業改善に取り組んできているというところで、現場の先生方に合った教科書であるという点であります。東京書籍は、他の教科書の探求過程の流れは、学習の導入、調べてみようっていう、こういう始まりなんです。東京書籍は「問題発見」と、切り込んでいるということで、その次に知りたい疑問を探求の課題と据えていると。問題発見、探求の課題、そしてその課題に対して自分の考えを仮説として明確に

して、あと観察・実験をし、結果・考察としていくわけであります。そして、最初に捉えたその課題に対する結論、これを結びつけながらまとめを構成しているという。こういうしっかりした流れと言いますか、探求の過程を作っている。そして更には、その習得した知識を使って、身の回りの事象について説明させるっていう、活用の場面を設けているという点であります。教科書を見ている、その探求のステップが、アイコンが非常に目につきやすく、そのことが過程の学習を繰り返している教科書になっているというところでもあります。もう1つ、東京書籍の特徴なんですけれども、学習指導要領の各学年で育成する力を重視して編成されていて、1年では問題を見出す、2年では実験観察方法を構想する、3年では例えば現在使っている教科書の環境のところで、外来生物については「調べてみよう」とやっているわけなんですけど、新しい教科書の新編では「君ならどうする」と、こういうように科学的に考察してさらに判断する場面を作っているっていうこと。いわば、自分事として捉えるっていういいですかね、主体的、自立的、自分で自立する方の自立。自立者としての、踏み込んでいくっていうことが見えました。したがって、さらに新編の東京書籍っていうのはそんな点で優れているなということを感じたわけでございます。以上です。

○熊谷議長：さらに、いかがでしょうか。

○委員：教科書をどう私たちが考えていくかっていう、教科書の考え方が本当大事になってくるかなと。で、どう教科書を学ぶのか。東書の場合は教科書で学んでいくという。つまりそこには、先生の補助的ないわゆる先生の指導していく1つの流れにくっついてですね、教科書に生きていくわけですけど、他の教科書会社いくつかは「教科書を学ぶ」という考え方もあるんですね。教科書をやっていけば点数取れる。

で、長野県で今他の委員の方がおっしゃったように、長野県のやってきたことは、どちらかっていうとブルームの探求過程をやっているんじゃないかっていうことでやってきているので、そういう長野県の流れから言うと、東京書籍はありかと思います。ただし、私は捨てるのは、啓林館ですね。啓林館は両方を兼ね備えているので、そういうことを長野県全体でやっぱり考えても良いだろう。そういうことを考える時期に来ているんじゃないかなってことも思います。色んな先生方いらっしゃるんで、あくまでも東京書籍の教科書は先生が磨かないと子供に生きないよ。そういうやっぱり1つの大きな前提条件があるのかなと思いますので、そんなこともつけ加えながら選択すべきかなと思います。

○熊谷議長：はい、ありがとうございます。非常に今回私も感じたのは、個別最適な

学びってという方向性と、全体で学ぶっていうことのどっちが良い悪いというよりは、今新たなそういう価値観と言いますか、教育のあり方の方向性も出てきているので、そういうこともしっかりと考えていかなきゃいけないなと私の感じたところでございます。さらにいかがでしょうか。

それ以外のご意見はないでしょうか。よろしいでしょうか。

○（発言者なし）

○熊谷議長：それでは、理科につきましては、東京書籍を採択するというので、この委員会の決定としてよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございました。

それでは、続きまして、音楽の教科書採択についてのご意見をいただきたいと思えます。音楽は一般と器楽合奏がございますが、2社、教育出版と教育芸術社でございます。部会の方ではですね、教育芸術社が優れているという発表をいただいてご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

私も見させていただき、先ほどコンテンツのことを申し上げましたが、基本的にコンテンツは教材なので検定には関係ないんですけども、使い勝手からした時に、教育芸術社の方がパート別のコンテンツがあったり、全ての曲にほぼコンテンツが付いているので、よくパート練習ありますが、そういう時には非常に教育芸術社の方が使いやすいのかなってというようなことは感じました。先ほど、部会の方では、リコーダーっていう点ではやはり教育芸術社が良いんじゃないかというご意見をいただきましたがいかがでしょうか。

○委員：先ほど、調査研究委員の方は、教育出版さんの方は楽しく歌って楽しめるようになっていると強調されていまして。とても大事な視点かなということを感じたわけです。私、教科書を開いて見させてもらった時に、両方とも分かりやすいし、色彩とかもですね、落ち着いていると思ったんですが、私は、この教育芸術社の方がとても親しみやすさを感じて、学習する生徒たちにとってもこの方が優しく親近感を覚えるような感じがしたものですから、教育芸術社さんの方が良いかなと思います。

○熊谷議長：続けていかがでしょうか。では、お願いします。

○委員：「音楽」、字の通り、やっぱり楽しむってということが1番大事なのかなと思っております。どちらの教科書も、どこが良いのか悪いのかってというのは私もよく見てよく分からないんですけども。今日の部会の発表の中でもありましたけども、教育芸

術社の方が変な意味かもしれませんが、少し遊び心もあるのかなと、そういう面で取りかかりやすいのかなというような気もしております、部会の方の意見を尊重したいなと思っております。以上です。

○熊谷議長：ありがとうございます。さらに、いかがでしょうか。

教育芸術社を薦める、賛同する、ご意見が全員でございますが、ご異論はないでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい。それでは、教育芸術社に音楽の方は採択していくということによるのでしょうか。はい、ありがとうございました。

続きまして、美術について、3社ございます。これについては、先ほど部会の方ではですね、日本文教出版か光村図書が優れているということで、よりどちらかといえば日本文教出版ということでしたが、質問等ありましたが、いかがでしょうか。

○委員：先ほど部会からの提案の通りで、私は基本的には良いのではないかなと思います。美術と言いますか、芸術と言いますかね。それには正解は無いわけで、その子なりの成就感とか充実感とか、そういったものが充足できるような、そういった学びが展開できるような形で教科書が横にあれば、本当に良いのかなと思っております。そういった中では、やっぱり私は大事にしたいのが、その子なりの感性を刺激して、磨き、そして高めていけるような、そういう視点がすごく大事だなと思っております。その辺りの視点を大事にして、教科書を3社比べた時にですね、私はやっぱり日本文教出版さんのこの教科書が非常によくできていると言いますか。見させていただいて、自分自身、吸い込まれるような、そんな気持ちになったことは事実でした。先ほどもちょっと言及されたんですけども、ちょっと私的なことも含めてですけども、1年生の教科書が表紙を見るだけでですね、これ名画なんですけど。これを私、実物を実際に見た時に、本当にこう立ち止まって吸い込まれるような、そんな思いを記憶しています。また、これもそうなんです。これ2、3年生の教科書なんですけど。やっぱりこういった配慮とか、そしてまた最後には2冊と違う表紙と言いますか体裁なんです。これは、この教科にも書いてあるんですけども、これから旅立つ君たちへのメッセージというような内容で、自分自身で価値観を見い出したり、納得しながら人生を歩いていくという、生き方とか考え方とかいろんなことをですね。この教科書は示唆してくれる。そんな点もありまして、すごくよく整っている教科書ではないかなと思ってお

りますので、推薦いただいた通りの日本文教出版さんで良いのかなと私は思います。以上です。

○熊谷議長：ありがとうございます。続けていかがでしょうか。

○委員：お願いします。基本的には部会の方で提案があった日本文教出版で良いと思うんですが、先ほど委員の方が理科の教科書のところでお話しされたように、その教科書をどう使うかっていうね。そういう部分もあるのかなと思うんですが、さっき研究委員会の委員長さんがお話されていたのは、光村と文教のどっちかが良いと。で、光村はどちらかという教科書を読み進めながら自分で勉強できるようなスタイルになっているけれども、文教の方はとても自由度が高く、子供たちの発想を表現しやすいというお話がありました。で、やっぱり美術っていう教科性を考えた時に、自ら考えたことを表現できるとか、そういう自由度が多い方が私は良いと思うんですが、先ほど申し上げましたように、経験の浅い方とかですね、あるいはですね、これ言っちゃうとどうかなって話なんですけど、なかなか学校に足を向かない子供たちがですね、教科書で勉強しようとした時に、美術の教科書って絵がずらっと並んでいて、「なんか絵画集みたいだな」というような思いで眺めるだけになってしまうのか、何かこう考えるヒントみたいなものが書かれているっていうのも、もしかするとありなのかなと。そんなことを考えた時に、ちょっと迷いはあります。ただ、先生方のご指導に、あるいはそういう子供たちもが学校で勉強する意味があるんだってことを考えてもらえるということを期待して、日本文教で良いと思います。

○熊谷議長：はい。さらに、いかがでしょうか。今のところ日本文教出版についてのご異論はないんですが、いかがでしょうか。

○（発言者なし）

○熊谷議長：それでは、ご異論なしということで、美術につきまして日本文教出が最も適当であると決定してよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございました。

続きまして、保健体育でございます。保健体育につきましては4社ございますが、その中で学研みらい、大修館書店が優れていると。特にその2つで言いますと、学研教育みらいが優れているということでございますが、ご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○委員：お話がありましたように、委員の提案の通り、学研を薦めたいと思っております。

それに先立って、大修館も、私も捨てがたいと言いますか、専門的で書式が整って教科書として非常に価値が高いなことを思っておりますので、まず添えさせていただきたいと思いますが。その上で、学研を見させていただいた時に、やや説明やいろんなものを精選してきている感もありますけども、その分、実習とか、先ほど質問しました体育と保健の繋がりを大事にしている。さらに、ちょっと専門的で分かりづらいかもしれませんが、スポーツは文化として捉えていくっていうのが、今、文科省の方でも位置付けて、教科書の中にもそれが載ってきているわけです。で、残念ですが、大修館さんはその部分をちょっと省いて3つ、他の3社は スポーツの文化的意義という欄を設けてやっておられることなどを総合的に含めると、学研さんでよろしいんではないかと考えております。以上です。

○熊谷議長：はい。さらに、いかがでしょうか。

○委員：はい。4社の教科書を見比べて、私はその大日本が良いなど。紙も厚くて、カラーで、ただ、1番重かったわけですけども。それはなぜ良かったかって言うと、自然災害っていうのが、どの教科書も取り上げられていて、応急手当とか心肺蘇生法とか、熱中症予防、そういう、あるいは避難所でできることっていう、教科書を使って実習できるなっていうね、良いなっていう、そういうことを思いました。それで、学校で使う時、先生、それから子供にとってどうかと見た時に、どの教科書も最初その導入の部分、「見つけよう」とか「課題を掴もう」とか、意見交換をして理由を考えると、あるいは大修館なんかそうなんですけども。その中で学研が「ウォームアップ」ということで、例えばその、スポーツの語源を1つ選びなさいとか。あるいは、道に胸を押さえてしゃがみこんでいる人を見つけたら、あなたはもうどうするっていう。言わば、自分を意識させるっていう、そこからスタートしている。他の3社は非常にその課題把握まで重いついていうかね。それから、子供たちを考えた時に、そろそろ自分を意識して追求するっていう方が、保健体育あたりはそういう授業の方が子供たちも食いついてくるんだろうなっていうことを思いました。そういった意味で、1番に選んでいただいた学研のこの教科書が良いというように思います。

○熊谷議長：はい、ありがとうございます。他社も魅力はあるけれども学研みらいということで賛成するご意見が続いておりますが、さらにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員：時間がだいぶ伸びている中で申しわけありません。私も学研みらいが良いと思っています。どの教科書も見開き2ページで1つの題材を扱っていくっていうのを基

本にしながら編集されているんですけど。例えば、学研みらいで心肺蘇生法のところを見るとですね、2番目って言われていた大修館どちらも捨てがたいんですけど、例えば心肺蘇生法のところを見ていくと、学研みらいの方は、心肺蘇生法の流れと、それから実際にやっていく実習の部分が同じ見開きページの中で見れるんです。ところが、大修館の方はページを1枚めくることになってしまふとかっていうな小さなことなんですけど、実は実習やっていく時、全体の流れが見えて蘇生法をやってくってという方が子供たちにとっても学びやすいかなと。

大修館の方だと、前のページで全体の流れがあって、ページをめくると実際に実習があるっていうような小さなことなんですけど、そういうようなところまで、多分、学研の方は配慮をして編集をしているんだなっていうこともありますので、結論から言うと学研の方が良いかなと。それから、非常に学研はデータが豊富で、読み物風にも工夫をされていて、子供たちからしても親しみやすいのかなっていうことも思いました。以上です。

○熊谷議長：はい、ありがとうございます。さらにいかがでしょうか。

ご意見はないようですので、今続けでご意見いただいた学研教育みらいが良いというご意見でございます。適当であるということですが、この委員会についても学研みらいで適当ということ決定してよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございました。

続きまして、技術・家庭科でございます。技術と家庭科、それぞれ3社ずつございますが、東京書籍が最も優れているのではないかとかいうことも出ましたし、教育図書も出ましたけども、東京書籍ということで推薦をいただいておりますが、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員：はい。では、お願いいたします。3社から教科書も出ておりますが、正直、甲乙つけがたいなと読んでみて思いました。名前は違うけれども、いろんなこう、ポイントになるようなコラムがあったり、参考になるページはここだよって飛ぶような指示があったり、あるいはQRコードがあったりと。もうほぼどの教科書も同じような構成になっています。ただ、その中でやっぱり1番大事にしなければいけないのは、ちょっと私質問をしたんですが、技術分野で言えば、技術の見方・考え方っていうものがどのように取り上げられていくか、家庭分野で言えば、生活の中での生活の営みに関わる見方・考え方、これがどのように捉えられているかっていうところかなと思って

いたんですけれども。委員長も力強く話をされていましたが、東京書籍はまず最初のガイダンスで、1番最初のページのところにしっかりとそのことについて書かれ、そしてそれぞれの4つの内容のところにまた丁寧にその部分が盛り込まれていると。そういう点で、とても東京書籍はやはり良いなと思いました。特に、技術家庭科の非免許でやってる先生も多いです。教科書のそのとこって分かりにくいんですよ。私たちの年代って、技術と家庭科ってなんか作ることっていうね、イメージがあると思うんですが、今ちょっと考えが変わってきていて、いかにその技術そのものを評価していくかっていうところに視点が行っていきます。そのところをやっぱりその非免の先生や経験の少ない先生でも教えてもらえるには、教科書のそのところをしっかりと書いてある東書が良いなと、そんな風に思います。以上です。

○熊谷議長：さらにいかがでしょうか。

○（発言者なし）

○熊谷議長：ご意見がなければ、今の会員のご意見に賛同ということでよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい。それでは技術も家庭科も見方・考え方が学べる東京書籍ということで決定をしたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、外国語について、6社出ておりますが、その中で東京書籍と、開隆堂が優れているということで、特に東京書籍ということで推薦をいただきましたがいかがでしょうか。

○委員：よろしく申し上げます。私、先ほど質問させてもいただいたんですが、小学校で使っているって教科書が光村教科書だっていうことで、それとの接続がとても心配でありました。で、ちょっとその接続がどうなっているかっていうのがあんまり英語ってよく分からない教科で、ぱっと見て捉えることができなくて、で、光村の教科書「Here We Go!」を見ると、出てくる登場人物も小学校と同じであるし、接続もこう入りやすいんだなと思いましたし、また、そういう目で見ると、どの教科書にもあるんだけど、尋ね合おうとか感想を伝え合おうとかインタビューしようとかっていう、そういうこともきちんとあって、相手意識を持って対話活動ができるような教科書になっていて、「それなら小学校と同じで良いんじゃないか」みたいな気持ちで今日来たんですけれども、先ほど委員会のお話を聞きまして、「なるほどそうか」と思ったのは、1年の教科書で小学校の単語っていうのがずっと載ってまして、「そうい

うこともあるんだな」ということと思ひまして、接続がしっかりしていれば先生方も教えやすい東書が良いんじゃないかなと思ひました。以上です。

○熊谷議長：はい。さらにいかがでしょうか。

○委員：結論から申し上げまして、今、委員さんからもお話があった通りで、東京書籍で良いのかなと思ひます。その理由としてですね、先ほどの3点についてお伺いをして、その回答をいただいたんですけれども、それに加えて、重ねてというところもあるんですけれども、大切な視点として、スチューデント・センタードであるか、コミュニケーション・センタードであるかという点、いわゆる子供が学習の主体であるといった観点から編集された教科書の内容、それもですね、これ、見比べていただくとわかるのですが、写真とか、絵とか、それから色合いとか、子供たちが非常に興味を持つような題材であったりとかですね、とても良い編集なのかなと思ひています。

1番大事なのは、コミュニケーションを図っていくための関心や意欲や態度を養うという点になるかと思うんですけれども、調査委員会報告ではそんなに言及されていないんですけれども、例えば、扉のページを見てみると、2年生ではこのタイトルが「もっと英語で伝え合おう」といったように、コミュニケーションに特化した投げかけや、いろんなテーマに基づいた問いがあるわけなんですよね。で、3年生になるとですね、先ほども聞いたんですけれども「英語を使って共に生きる」という、いわゆる共生的な視点。ともに生きる上で英語を習得して、それでお互いの意思疎通を図りながらお互いに共有し合ったり、理解し合ったりっていう、そういったような視点がですね、色濃く配置されているというところも特色かと思ひます。ですので、コミュニケーション活動の充実とか発展とか、それから拡充という点、これは東京書籍が1番群を抜いて良いのではないかなと思ひています。また、この教科書の特色として、今回のこの報告書には入っていないんですけれども、いわゆるメインのユニットで習う学習以外のところですね。差し込み教材的な内容のグラマー・フォー・コミュニケーションですね。いわゆる文法ですが、その文法そのものを学ぶのではなくて、コミュニケーションのためにこういった文法事項を学ぶんだよというスタンスで編集されたページが随所にあるわけですね。このグラマー・フォー・コミュニケーションというのはすごく大事な視点だと私は思ひていて、先ほど時間の関係で言いませんでしたけれど、すごく良いなと思ひます。それからもう1つはですね、リアル・ライフ・イングリッシュっていうのがあるんですね。これってすごく大事で、ここの教科書に挙げてあるところを拾うだけでも、例えば、現実的に買い物場面とか、飛行機に乗って機内でど

うするのだとか、税関でどうするのかとかですね。例えばそういったページを巡って  
いだけで、ちょっとした世界旅行が仮想体験できるのかなというような、そういつ  
た題材とか表現などが差し込まれています。ですので、先ほど申し上げた通り、コミ  
ュニケーションに特化された、その点を大事にした編集であり、子供たちがそこに食  
いついて学びを深めていく、そんな編集をされているということで、ぜひこの東京書  
籍を推薦したいと思います。以上です。

○熊谷議長：はい。他の委員の皆さんからありますか。はい、お願いします。

○委員：よろしく申し上げます。私も、東京書籍のNEW HORIZONが良いと思います。先  
ほどの委員さんと重複の部分がほとんどですけれども、学習者視点で申し上げます。  
色々な英語の教科書を拝見いたしましたけれども、やはり東京書籍が群を抜いて、手  
に取ってみた時に良いと思いました。非常に細かい文字でたくさんの情報がある教科  
書もありましたけれども、こちらの教科書は、説明にもありました通り、本当にたく  
さんの図面が、図とか、あと大きな写真、この人ってどんな人なんだろう、世界って  
いろんな価値があるな、広いなと思わせるような教科書。あと、リアル・イングリッ  
シュということで、本当にリズム感が感じられるような教科書作りであったように思  
います。あと、説明会でおっしゃっていた非常に心に残った言葉として、英語を学ぶ  
のではなく、英語で学ぶっていうのを、そちらも非常に感じられました。英語を学ぶ  
っていうと、本当に辛くなってくるんですけれども、英語で学ぶことによって、たく  
さんの情報とか、たくさんの価値観、文化を学べる、社会を学べるっていうような印  
象が受けられる教科書だと思います。以上です。ありがとうございました。

○熊谷議長：ありがとうございました。他にご意見ありませんか。

いずれも東京書籍の「NEW HORIZON」が良いというご意見がございました。この委員会  
においても最も適当であると決定してよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい、ありがとうございました。

では、最後に道德についてご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員：どの教科書会社も素晴らしいです。例えば、学研は新しい形で提示されてお  
ります。さっき全体でも言いましたように、東書はいわゆる道徳的価値を追求してい  
く、まさに先生と共に追求していく、そういう編集になっています。で、そういうこ  
と考えると、ちょっと私もクエッションがついて非常に悩んでいるんですけれど、現  
場の先生方は「これが良いぞ」ってことになれば、これを押すのは良いのかなと思

ます。で、光村の良いところは何かって言うと、さっきも出ていましたように、小学校も光村ですので、同じ教材文の学び直しができる。その学び直しによって、自分の捉え方が変わったり、自分はどうなったっていう、そういうレプリと言いますか、自分を見つめていくことが**できるよ**うにとということが1つです。で、もう1つは、どの教科書もアクティビティをかなり取り入れています。教材を読んでからどうだったって感想言うんじゃないくて、実際に動きながら、例えばリフレミングというのがありますけれど、今まで自分の自尊心だとか自己肯定感のない子が、違う見方でどのように自分を見ていったら良いとか、そういうものが光村は入っておりますし、私が1番光村の良いなと思ったのは、今、いわゆる子供の権利条約だとかそういうことで非常に大きな話題になっております。それを、ちゃんとした、いわゆる場面って言いますか、3年で1年、2年、3年通じてですね、そのコーナーを設けて、見方・考え方をちゃんと示しているということですね。それからもう1つは、振り返りを通じて、まさに1年間または3年間に自分の記録をしていく、そういう付録がついておりまして、それを並べることによって、自分のことをもう1回認め直す、そういうチャンスが出てくるっていうようなことで。色々ありますけれども、現場の先生方が良いっていうことで私も賛成です。

○熊谷議長：続けていかがでしょうか。

○委員：要は道徳の教科書、何を1番大事に考えるかっていうと、やっぱり資料が、中身がどうなるかっていうことだと思います。で、尽きるところ、簡単に言うと、私が読んだ中で、光村。これが1番こう豊かで心に残るんじゃないかな。そんなふうに私は感じた。だから、光村でよろしいんじゃないかなと思います。

○熊谷議長：ありがとうございます。さらに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。今、光村図書が良いというご意見で、皆さん納得していらっしゃるようですので、道徳につきましては光村図書出版の教科書にということで決定してよろしいでしょうか。

○（全員同意）

○熊谷議長：はい。ありがとうございます。ご協議ありがとうございました。今後の進め方につきましては、この後、事務局から説明がございます。

---

### 3. その他

---

(1) 今後の日程について

(2) 選定結果・議事録等の公開非公開について（確認）

○（発言者なし）

---

#### 4. 閉会

---